

○6 番（大野一行君）

6 番、大野です。質問いたします。

まず、観光行政について問います。

1 つ目、小豆島とのしょう観光協会が小豆島観光協会に統合された経緯と統合のための予算等について伺います。これは委員会でも報告はされておりますので、改めて本会議で伺いたいと思います。

2 番目、現在、一般社団法人 **setouchi** とのしょうに委託しているエンジェルロード売店の売り上げ収入金額は、土庄町財政に帰属するのか伺います。

3 番目、小豆島観光協会に統合した現時点でのメリット・デメリットについて評価と今後の方向性について伺います。

○議長（濱野良一君）

商工観光課長 蓮池幹生君。

○商工観光課長（蓮池幹生君）

それでは、大野議員のご質問にお答えいたします。

委員会等でもご説明させていただきましたが、包括的に小豆島の観光施策に取り組むことで、小豆島全体の観光・産業・文化の振興に寄与するため、令和 5 年 4 月に、一般社団法人小豆島とのしょう観光協会、小豆島町観光協議会、小豆島観光戦略会議が、一般社団法人小豆島観光協会に一本化されました。

それまでも、それぞれの団体が、それぞれの特色を生かしながら、小豆島の観光に寄与してきたわけですが、観光事業については、両町や関係団体が、町の垣根を越えて連携、協働して、一体となって取り組む方が効果的で、観光客にとっても望ましいとの意見が以前からあったところ、両町の町長の顔ぶれが変わったことも一つの契機となりまして、一本化に至ったものと認識しております。

なお、一本化のための費用負担は特にありませんが、一本化後の当協会の運営費につきましては、引き続き両町から負担金として支出しております。

それから 2 点目のご質問になりますが、一般社団法人 **setouchi** とのしょうには、エンジェルロード売店等の運営のほか、土庄町の観光 PR や町物産の販売促進、ふるさと納税業務等を委託しております。エンジェルロード売店等の運営には、案内業務、駐車場の警備、トイレの清掃、エンジェルロードの情報発信なども含まれております。

売店の売り上げ収入につきましては、**setouchi** とのしょう自らが主体的に経営を行うよう、**setouchi** とのしょうの収入として計上することとしており、したがって町には直接帰属はしませんが、標準的な収入を勘案して委託料の算定をしておるところであります。

町としましては、**setouchi** とのしょう独自の取組みであるオリジナル商品の開発であったり、ソフトクリーム販売などが、売り上げの増加に貢献していると

評価しているところであります。

なお、今年の 2 月から実施しているエンジェルロード第一駐車場有料化に伴う駐車場料金につきましては、町の収入としていることを申し添えます。

それから 3 番目のメリット・デメリットの方向性のご質問でございますが、観光協会統合のメリットとしましては、窓口が一本化されたことにより、情報の一元化や効率的な運営につながっております。また、統一された発信やプロモーション活動を通じて、統一したブランドイメージの構築にもつながっております。

さらには、両町間の連携が強化されることにより、さまざまな事業を小豆島全体で行うことができるようになっており、具体的には小豆島観光ビジョンの策定や、グリーン・デスティネーションズのシルバーアワード受賞などの成果が生まれ、また、そのことが、小豆島全体で実施する大きな事業への民間事業者の参入や補助金の採択につながるなど、行政や地域の垣根を越えた施策を実施していく上で、大いに役立っております。

デメリットにつきましては、現在までのところは、特段大きな問題は発生しておりません。

今後の方向性としましては、小豆島全体の観光戦略とも連動させながら、地域資源の掘り起こしやプロモーション活動との連携強化、新たな観光プログラムの創出など、多角的な施策と合わせて推進していく必要があります。「島は一つ」の共通認識のもとで「観光に消費される島ではなく、観光により持続できる島」を目指していく取組みを一層推進し、来る側も受け入れる側も、そして観光客も事業者も、みんなで地域に貢献していこう、そして地域の魅力を最大限に引き出しながら、小豆島が世界から選ばれる観光地、来てよかったと思われる観光地となるよう、取り組んでまいりたいというふうに考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

○議長（濱野良一君）

大野一行君。

○6 番（大野一行君）

この今回の質問ですが、関連質問がたくさんありますので、それは 9 月議会で質問したいと思っています。

1 点だけ、改めてわかればお聞きします。令和 5 年度 4 月に合併したときですね、最初の予算金額だけ、先ほどは、両町が負担をしてるということだけでしたので、この 1 点だけ金額、いくらでしたか、最初のわかればお願いします。

○議長（濱野良一君）

蓮池課長。

○商工観光課長（蓮池幹生君）

大野議員のご質問にお答えいたします。

setouchi とのしょう観光協会への委託料ということになりますと、令和 5 年度は 950 万余でございます。

○議長（濱野良一君）

大野一行君。

○6 番（大野一行君）

わかりました。続きまして、時間の関係で、次の質問に移ります。

町営バスの現状について問います。

まず 1 つ目、四海バスについての経緯と予算等について伺います。お願いします。

○議長（濱野良一君）

企画財政課長 中村友幸君。

○企画財政課長（中村友幸君）

大野議員のご質問にお答えいたします。

四海線に説明するに当たり、最初にバス路線全般のあらましを説明させていただきますと思います。土庄町に關係するバス路線といたしましては、坂手線、福田線、田ノ浦映画村線、西浦線、中山線（こちら旧大鐸線です）、それから四海線の 6 路線があります。この 6 路線のうち、坂手線、福田線及び田ノ浦映画村線は、こちらは小豆島オリーブバス株式会社が運行いたします基幹的な路線として位置付けられており、西浦線、中山線それから四海線の 3 路線は、採算性が低い赤字路線であります。住民生活に必要不可欠な交通手段として、町がオリーブバスに委託して運行する路線との位置付けでありました。

そのような中、令和 6 年 4 月から国の働き方改革の一環といたしまして「自動車運転者の労働時間等の改善のための基準」が適用され、バス運転手の労働時間の上限時間や休息时间等の基準、こちらが改められるとともに、同年 5 月にはオリーブバスに対しまして、高松労働基準監督署から時間外労働等に対する是正勧告及び改善措置の指導があったことなどから、同社の運転手不足はさらに深刻化するに至りました。

こうした状況に対応するため、小豆島地域公共交通協議会で協議いたしました結果、今年の 4 月から、四海線につきましては、町直営での自家用有償旅客運送といたしまして、オリーブバスから切り離すことにより同社の負担を軽減した上で、運行を小豆島交通株式会社に委託して継続運行することになったところでございます。

予算の方につきましては、小豆島交通に対する運行委託料は 1702 万 2 千円でありまして、その内訳といたしまして、運行経費として 1268 万 5 千円、運行いたしますマイクロバスに IC カードリーダーを含む運賃箱や停車ボタン等を整備

するための整備費として、433 万 7 千円となっております。以上でございます。

○議長（濱野良一君）

大野一行君。

○6 番（大野一行君）

続きまして、土庄町内における四海地区以外の町営バス等の現状と今後の課題について伺います。

○議長（濱野良一君）

中村課長。

○企画財政課長（中村友幸君）

大野議員のご質問にお答えいたします。

そのほかの町営バスといたしましては、企画財政課の所管では、豊島地区シャトルバスがございます。こちらは、豊島住民の生活及び来島者の足の確保といたしまして、運転手職員 2 名で家浦港から甲生集会所前区間、それから家浦港から唐櫃港区間の 2 路線を運行いたしております。住民の方々のみならず、観光客の方々に多くご利用いただいております。

今後の課題につきましてですが、企画財政課からは、路線バスの課題としてお答えさせていただきます。

公共交通機関といたしまして、バス路線は不可欠であるとの認識のもと、バス事業会社の経営の安定化を図り、いかに持続的にバス路線を維持していくかが重要であるというふうに認識しております。そのため、まずは運転手不足解消への支援を含め、必要な支援を適時適切に行い、もって住民生活の足の確保・維持に努めていきたいと考えております。以上です。

○議長（濱野良一君）

健康福祉課長 渡辺志保君。

○健康福祉課長（渡辺志保君）

その他の町営バス等としまして、健康福祉課の所管では、路線バスの空白地域である滝宮、見目空地・ナベワ、小馬越、笠滝において、高齢者等の島内医療機関への通院の便宜を図るため、福祉バスを運行しております。運行便数につきましては、土庄町中心部への上り便が午前 7 時台の 1 便、下り便が午前 11 時台と午後 1 時台の 2 便となっております。

利用実績は、令和 4 年度が 556 件、令和 5 年度が 523 件、令和 6 年度が 511 件と年々減少しているのが現状です。

また、大部地区においては、バスに乗りたくてもバス停が家から遠く利用ができないという声があったことから、今年の 3 月から、バス停までの移動が難しい方を、登録運転手が自宅から大部公民館前バス停まで送迎する「地域おたすけ送迎支援事業」を実施しております。対象者は、大部地区にお住いの 75 歳以上

の方及び障害等により歩行が難しい方で、利用料は無料です。

事業を開始したばかりということもありまして、利用実績が少ない状況ですが、地域共助の促進や福祉交通施策の一つの方策として、本事業が地域に根付くよう、地域の皆さまにご理解、ご協力をいただきながら、利用者の拡大に向け、周知啓発を行い、事業の継続に努めてまいりたいと考えております。以上でございます。

○議長（濱野良一君）

大野一行君。

○6 番（大野一行君）

さまざまな施策をしていることはわかりました。

土庄町といっても広うございまして、他の地域の人たちの気持ちとしては、やはりできるなら、私の地域もそうして欲しいと言う声が、実は上がっておりまして、そのための質問をしています。

町長に伺います。今後のこの今のさまざまな、制度、福祉バス、それから四海バス、形は変わっても、他の地域にも広げていこうとお考えになっているのかどうか、お伺いします。

○議長（濱野良一君）

岡野町長。

○町長（岡野能之君）

大野議員のご質問にお答えいたします。

土庄町の地域交通の取り巻く環境は、現時点でも大変厳しい状況でございます。今後さらに厳しくなることが、予想されます。そのようなことから、今後の地域交通のあり方については、福祉バス、地域おたすけ送迎事業、自家用有償旅客運送の今後のあり方、また、ライドシェアや自動運転バスの実証実験や先進地の事例の調査研究を進め、よりよい地域交通の環境を作っていきたいと思っております。以上でございます。

○議長（濱野良一君）

大野一行君。

○6 番（大野一行君）

行政っていうのは、大変な仕事ですので、そう、一長一短にいかないのはよく理解はしております。

その前提で、できうる限りある意味では、他の地域も公平にできるならです。予算の関係もありますけれども、そういうふうな形で、今後ともお願いを申し上げたいという意見を申し上げて、次の質問に入ります。

公共施設の耐震性について問います。中央公民館と東港にある港務所の2施設の耐震診断の進捗状況について伺います。この中央公民館については、委員会

では報告がございまして、聞いてはおりますが、本会議で改めてお聞きしたいと思います。

○議長（濱野良一君）

生涯学習課長 岡本高志君。

○生涯学習課長（岡本高志君）

大野議員のご質問にお答えいたします。

中央公民館の耐震診断につきましては、本議会において耐震診断委託料の予算案を提出させていただいております。

中央公民館は、昭和 57 年度に建築され、新耐震基準に基づいて建設された施設です。しかしながら、建築から 42 年が経過し、外壁の爆裂など、建物の経年劣化が進行しています。加えて、電源、照明など設備の老朽化も相当程度進んでおり、ニーズに応じ切れなくなっております。

こうした状況から、利用される皆さまの安全確保と、中央公民館の長寿命化の方策等を検討するため、まずは耐震診断を実施したいと考えております。

今後とも、町民の皆さまが安心して利用できる施設となるよう努めてまいりますので、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

○議長（濱野良一君）

大野一行君。

○6 番（大野一行君）

確かに中央公民館は、普段から多くの町民の皆さんが使ってますので、最優先課題であろうというふうに思います。お願いをしたいと思います。

続きまして、東港にある港務所の耐震診断についての進捗状況を伺います。これは私が以前から質問をしていますので、改めてこの 6 月議会で質問いたします。

○議長（濱野良一君）

建設課長 赤谷淳君。

○建設課長（赤谷淳君）

大野議員のご質問にお答えいたします。

建設課所管の土庄東港港務所につきましては、昭和 45 年に旧耐震基準に基づいて建設された鉄骨造の建物で、すでに 55 年が経過しております。

今年度、耐震予備調査を実施し、建物の主要材の損傷や変形、経年劣化、被災歴等を調査したうえで、今後の対応について検討したいと考えております。以上でございます。

○議長（濱野良一君）

大野一行君。

○6 番（大野一行君）

この港務所、今喫茶店の形ですけど、今の課長の答弁によりますと、半歩、1歩前進かなというふうに評価をいたしますが、関連質問は、また9月にしたいと思います。

続きまして、三枝前町長が誘致したやさい工場について問います。

まず、過去の委員会、議会で質問してまいりましたので検証のためにその後の推移と現状を伺います。

○議長（濱野良一君）

農林水産課長 塩見康夫君。

○農林水産課長（塩見康夫君）

大野議員のご質問にお答えいたします。

小豆島やさい工房につきましては、令和5年12月議会にてそれまでの経緯等をお答えしておりますので、令和5年度以降の取組と現状についてお答えいたします。

令和5年度以降の取組としましては、小豆島やさい工房の使用を希望する事業者を土庄町ホームページにて令和5年6月1日から8月31日まで公募いたしましたが、応募はございませんでした。

また、令和6年度以降につきましては、令和6年5月24日から土庄町ホームページにて現在も継続して公募中でございます。

これまでの間、お問い合わせいただいた事業者は、5者ございましたが、使用には至っておりません。以上でございます。

○議長（濱野良一君）

大野一行君。

○6番（大野一行君）

この、やさい工場の閉鎖した後の、その後の土庄町の予算執行の状況を伺いたいと思います。

○議長（濱野良一君）

塩見課長。

○農林水産課長（塩見康夫君）

大野議員の2点目のご質問にお答えいたします。

小豆島やさい工房は、令和3年3月31日にカトーレック株式会社が撤退しておりますので、令和3年度以降の予算執行状況についてお答えいたします。

令和3年度は、消耗品費として68万7170円を支出しております。また、令和4年度は、職員の県内旅費として6460円を支出しております。令和5年度以降の予算執行はございません。以上です。

○議長（濱野良一君）

大野一行君。

○6 番（大野一行君）

このやさい工場ですが、先ほど冒頭申し上げましたけれども、前三枝町長の、誘致をした件ですけれども、これからどうなされるのか、どうするのか、どう考えておられるのか、最高責任者の町長に伺います。

○議長（濱野良一君）

岡野町長。

○町長（岡野能之君）

大野議員のご質問にお答えいたします。

やさい工場を今後どのようにということですが、町といたしましては、引き続き公募を継続してまいりたいと思っております。

また、本町と連携関係にある大学等にも働きかけを行うなど、この施設の利用について、あらゆる可能性を探ってまいりたいと思っております。

○議長（濱野良一君）

大野一行君。

○6 番（大野一行君）

このやさい工場は、随分時間が経っておりまして、いくら少数金額といえども、ある意味無駄な金額になるのかなという感じはあります。引き続き検証のために、今後も質問をしたいと思います。

続きまして、子ども食堂について伺います。

すみません、まず、子ども食堂に対して土庄町からの助成金について伺います。この助成金は、以前に鈴木議員が質問されてから、多分助成金がないされているというふうに思います。お願いします。

○議長（濱野良一君）

健康福祉課長 渡辺志保君。

○健康福祉課長（渡辺志保君）

大野議員のご質問にお答えいたします。

土庄町では、令和 6 年度から、子ども食堂を実施している、一般社団法人 小豆島子ども・若者支援機構に対して、年間 12 万円の補助を行っています。以上でございます。

○議長（濱野良一君）

大野一行君。

○6 番（大野一行君）

年間 12 万円ということですので、1 カ月 1 万円ですね。

私の資料によりますと、子ども食堂で、2024 年度 4 月の利用者が、子どもが 66 人、大人が 130 人。2025 年 4 月利用者が、子どもが 51 名、大人が 130 名。宅食、つまり家庭に配達するのが、子ども 50 食、大人 46 食でございます。

ちょっとびっくりしたのが、これだけ大変なしんどい方が土庄町民の中にもおられます。頑張っておられますけれども、やはり、こういう子ども食堂に頼らざるを得ない、いう現状がここに垣間見えます。このことについて、課長の感じられている気持ちを、まず伺いしたいと思います。

○議長（濱野良一君）

渡辺課長。

○健康福祉課長（渡辺志保君）

大野議員の再質問にお答えいたします。

小豆島子ども・若者支援機構が、子ども・若者の居場所づくりにご尽力いただいていることにつきましては、大変ありがたく思っております。また、物価高の中での食事の提供にはご苦勞あるものと推察しており、さまざまな工夫をこらしながら事業に取り組んでいらっしゃると思うっております。

土庄町からの補助につきましては、それまで利用していた助成金が終了するというので、同団体からのご相談を受け、令和 6 年度から補助を開始したものでございます。支援の拡充については、利用実績や今後の事業計画等も十分に精査しながら、同団体に対し同額の補助を実施している小豆島町とも協議の上、検討していく必要があると考えております。以上です。

○議長（濱野良一君）

大野一行君。

○6 番（大野一行君）

ありがとうございました。

ちなみに参考にもう 1 点申し上げますと、2024 年度、子育て支援団体部門で、香川県から応援団体賞をもらっています。それから、2025 年、食育活動部門で、たぶんこれ全国だと思うんですが、大賞を受賞しています。

現場で聞きますと、この宅配、宅食ですが、せめてこれも有料にしたいと。宅食、家で食べる弁当ですね、実はこれも無料なんです。

町長に伺います。最高責任者として、私思うのは、もっと人に予算をかけるべきではないですか。先ほど課長から、小豆島町と相談をしてということですが、それぞれの行政の違いがあります。例えば、小豆島町は、給食費はタダです。そういう意味では、土庄独自に、人として、行政のトップとして、もう少し予算を増やすべきじゃないですか。

1 万ですよ、これ。月にたった 1 万、補助金と言えませんよ。

もう一度伺います。人としてどうなのか、行政のトップとしてどうなのか、この 2 点伺いたしたいと思います。

○議長（濱野良一君）

岡野町長。

○町長（岡野能之君）

大野議員のご質問にお答えいたします。

この子ども食堂についての助成金ですけれども、先ほど課長も申したとおり、利用実績は、先ほど大野議員の方からお伺いいたしました。ただですね、その利用者のことについて、どのような方が利用されているかどうかとか、他市町の事例を見てみますと、私どもの定めている基準に比べれば、本当に基準が厳しく設けてやられており、それが行政が補助する理由としての見解だと思っております。

そのようなところで、何度も申しますが、利用実績を含めた利用者の内容とか、どのような形で出されているかというところを、もう一度精査いたしまして、課内会議、また庁内会議、それから小豆島町との話し合いの上で、補助金額等を定めていきたいと思っております。以上でございます。

○議長（濱野良一君）

大野一行君。

○6 番（大野一行君）

誠に申し訳ないんですが、行政のトップとしてはそれで私も理解します。わかっておりますけれども、もう 1 点、人としてどう思うか、この現状をお聞きしたいと思います。

○議長（濱野良一君）

岡野町長。

時間止めてください。

○議長（濱野良一君）

再開いたします。

岡野町長。

○町長（岡野能之君）

大野議員のご質問にお答えいたします。

私的な意見というのは、私町長をさせていただいておりますので、トップとしての意見というふうにとらえられる可能性がございますので、このような公の場で私的な発言は控えさせていただきます。

○議長（濱野良一君）

大野一行君。

○6 番（大野一行君）

立場はよくわかります。しかしながら、この議事運営してるのも人なんです。まず、人が優先なんですよ、私の考え方。で、誤解はありません。私、最初に申し上げたように、行政として理解できますと、答弁は。人としてどうなんですか、これ何ら不思議はないと思うんですが、あまり固執しませんが、いかがです

か、町長。

○議長（濱野良一君）

岡野町長。

○町長（岡野能之君）

先ほど申したとおりでございます。

私が発言すると、町長としての意見として独り歩きしますので、このような場での答弁は控えさせていただきます。

○議長（濱野良一君）

大野一行君。

○6 番（大野一行君）

わかりました。ですが、この今の課長とのやりとりの中で、月 1 万円の補助金というのは、誠に、ないよりましという変な言い方ですけど、考えていただきたい。本当に。そういう意味では、行政人であるけれども、1 人の人間でもあるわけですよ。そのことを申し上げて、お願いを申し上げて、質問を終わります。